



## 武庫北小学校創立記念日



梅林 栄作

2月25日(水)は武庫北小学校の創立記念日です。昭和44年2月25日に開校式と記念音楽会、図工展を開催しました。そしてこの日を創立記念日としました。

### <創立当時>

武庫北小学校は昭和43年4月に、武庫小学校から分離し創立されました。開校当時は校地内に養鶏場が残っており周辺は田畑ばかりで、常松、西昆陽地区が一望できるのどかな田園地帯でした。児童数415名、13学級(初代校長 黒田忠司)でスタートしました。

### <児童数の変遷>

年々児童数が増加し、51年にはついに2000名を突破し、創立8年で市内はもとより県下でも指折りのマンモス校となりました。ピークは54年で2141名、54学級でした。その後、年々減少していき、現在は497名、19学級です。

### <当時を振り返って(創立20周年記念誌より)>

昭和43年6月15日、ドラセナ移植作業でした。降りしきる雨の中を、教職員と、氏田会長、藤木副会長さんら役員・有志の方々がずぶぬれになって働いて下さいました。その後もよい学校にしたい、子どもの心に潤いを与えてやりたいという熱心な奉仕活動が続き、私たちはこの熱意に打たれたのです。(初代校長 黒田 忠司)

### 清流月報について

私が武庫北を去ってから12年、今も欠かさず送り届けて下さっているのです。そんな学校が、他のどこにあるのでしょうか。ここに私は、みんなの活力で創り育てていこうとする「武庫北の心」を見いだすのです。

自主協力学習の研究と実践に、父母ともども意欲的に取り組んでいった経過。積み重ねられていく開校精神。(第2代校長 増井 元)

昭和51年4月7日の始業式には1600名、翌日の入学式には410名、全部で2010名の児童数となった。休み時間の運動場は子ども達で溢れんばかりになった。職員数も多く校内は絶え間なく目まぐるしい動きがあり活気に満ちていた。(第3代校長 久田 三千倉)

本校は学校と地域が一体化されています。地域、育友会、OB関連行事等にしても、そうですし、地域全体の心眼が投影された中で、教育が行われている感を強くしたものでした。(第4代校長 加藤 森喬)



## 武庫北の歴史(創立20周年記念誌より)

概説 氏田 良一(初代 育友会長)

西昆陽、常松地区は、武庫川の沖積平野であり、その水によって遠く弥生時代から稲作文化の開花したところです。

旧字名の常松字二の坪は飛鳥時代の国家の土地管理の条里制の名残です。

奈良時代には、僧行基の猪名野開墾、昆陽施院(のち昆陽寺)があり、昆陽寺西庄には、この地区がふくまれていたかもしれません。

平安時代の荘園期は、貴族九条家領から、春日一興福寺となり室町末期まで続きます。

南北朝時代の尼崎攻防戦、室町期の応仁の乱、細川両家の内紛、戦国時代と戦乱の続く中で、村は維持されていました。

また、天正7年(1579)の織田信長の伊丹城(城主、荒木村重)包囲攻撃では、昆陽寺、村々が焼き打ちにされております。

こうした苦難のなかで、村々の自衛、利益結束の組織、「惣一そう」が生まれ、六樋井組へと発展し、水利権を農民のものとしていました。

江戸時代は尼崎藩領、商品農業の菜種作り、綿作りが盛んとなり、経済的に豊かになりますが、藩の年貢の重圧に常に苦しめられております。明治22年、武庫郡武庫村西昆陽、常松、昭和17年、尼崎市に編入合併、明治一大正一昭和と阪神間への野菜の栽培地であったこの地区は、戦後、次第に宅地化がすすみ、高層住宅の郡立する街となりました。



開校当時の校舎の様子です。北校舎と渡り廊下や調理室が見えますね。



現在の武庫北小学校の校舎遠景です。左の写真(開校当時の校舎)と比べて下さい。